



広島経済同友会ダイバーシティ委員会
川妻利絵委員長(ひろしま管財社長)

広島経済 マル 分かり

多様性 個人と企業相互理解進める

一般的に「ダイバーシテ」イとは、「多様性」「相違点」「多種多様性」と解され、ビジネスの現場では「個人や集団の間に存在しているさまざまな違い」という意味で捉えられていま

すが、こうした点を踏まえ、ダイバーシティ委員会では、広島経済同友会の活動の4本柱の一つ「ひとつくりに」を支えるための活動をしています。

個人や集団の間に存在する情報の非対称性がお互いの理解を阻害する原因になるのではないかと考える下、地元企業の重要課題である新入社員・女性社員・広島県外からの転職者など、

企業側との相互理解に向けた取り組みを展開しています。

具体的には、新入社員との相互理解に向けては、新型コロナウイルス禍のために従来の就職活動と大きく異なる状況になったことを受け、昨年10月に当会と包括連携協定を締結している3

大学(広島修道大・広島女学院大・広島工業大)の4年生と当会会員で「新たな働き方」をテーマに、①コロナ禍の中での就活はどうだったか②コロナ後の企業経営のあり方と会社はどう変わっていくべきか③について意見交換会を実施しました。学生からは「コロナ禍でも地元企業の中には工夫して対面で面接してくれたところがあった。これが地元企業の強み」「女性の働きやすさの目安として育休取得率等が示されることが多いが、働く立場からは職場復帰率や休業前後の引き継ぎ方法などの情報が欲しい」といった多くの意見があり、参加した会員には耳の痛い意見もあって多くの学びの場となりました。

参加した女性社員と上司からは、それぞれ「お互いの期待と要望の見える化」が「できた・ある程度できた」との回答が8割以上で効果のあるセミナーだったと評価しています。

さらに県外からの転職者との相互理解に向けては、コロナ禍以降テレワーク対応も進む中、大都市からの移住希望者が増えている状況を踏まえ、広島での就労を経済団体として支援するために広島県地域力創造課と連携してセミナー等のイベントを実施することとしています。7月には、広島に関心のある大都市勤務者向けに、東京と広島の働き方や暮らし方の違いや広島の魅力などの情報を発信するセミナーをオンラインで開催しました。

このように、当委員会では、個人が尊重されるために必要な個人と企業の相互理解に向けた取り組みを、今後とも継続していきたいと考えています。



コロナ禍での就職活動や企業経営について意見交換する地元3大学の学生や委員会のメンバーたち



女性社員、上司の関係性を高める目的で開いたセミナー

次に、女性社員との相互理解に向けては、「女性と上司の関係性を高める自分発見セミナー」を開催し、28社・約70人が参加しまし

た。内容は、まず今年1月にカードゲームで「自己認識」を促すワークショップを参加企業単位で実施する方法をオンラインでレクチャーし、3月に代表企業のワークショップ成果の発表と併せて、女性社員と上司のお互いの思いやコミュニケーションの取り方などをリアルとオンラインを併用して話し合いました。